

青 私 幼

編集・発行

(一社)青森県私立幼稚園連合会

030-0861

青森市長島二丁目10-4

ヤマウビル8階

Tel 017-722-2780

Fax 017-722-2781

aoshiyo@beach.ocn.ne.jp



令和7年度事業報告

1. 一般社団法人青森県私立幼稚園連合会
第1回定時総会並びに第48回(令和7年度第1回)
設置者・園長研修会
日時 令和7年5月2日(金)
会場 ホテル青森・Zoomによるオンライン
2. 第9回青森県私立幼稚園乳幼児保育研究会
日時 令和7年5月17日(土)
会場 アピオあおもり
3. 第13回新規採用教員研修会
日時 令和7年7月28日(月)
会場 リンクモア平安閣
4. 青私幼通信第241号
5. 教職員永年勤続表彰(4名)
6. 第41回青森県私立幼稚園教員研修大会(青森大会)
日時 令和7年8月8日(金)
会場 メイン会場 ホテル青森
むつ会場 プラザホテルむつ
Zoomによるオンライン
7. 一般社団法人青森県私立幼稚園連合会
園長協議会(理事長・園長合同会)並びに第49回
(令和7年度第2回)設置者・園長研修会
日時 令和7年11月11日(火)
会場 ホテル青森
8. 第4回キャリアアップ研修会
日時 令和7年11月29日(土)
会場 八戸商工会議所
Zoomによるオンライン



届けよう！ こどもと共に生きるよろこびを

一般社団法人 青森県私立幼稚園連合会
会 長 山 西 幸 子



この冬、青森県内は大きな自然災害に見舞われました。12月8日の八戸市での震度6強の青森県東方沖地震、年が明けてからの青森市を中心とした津軽地方の大雪、それぞれにおいて多くの幼稚園では、休園や自主登園などの対応に追われ、園舎などへの影響も少なからずあったとのご報告を伺っております。特に青森市の災害ともいえる大雪では車が出せずに徒歩での出勤を余儀なくされた先生方も大勢いらしたとのこと。寒い時期、しかも行事が目白押しの三学期に、どんなにか大変な思いをされたことでしょうか、心からのお見舞いを申し上げます。

さて、冬は昨年が続いての大雪、夏は年々厳しさを増す暑さ、かつて経験したことのないような自然の移り変わりのなかで、私たちは「静かなる有事」とも言われる「加速する少子化」の現実を突きつけられています。

子ども子育て新制度が正式にスタートした平成27年の5月1日時点での本連合会の加盟園数は104園、在籍園児数は3号認定の園児数は含まずに7,472名でした。そして、10年後の令和7年5月1日時点では加盟園数85園、在籍園児数4,762名（1～2号認定3,888名、3号認定874名）となり、この10年間で園児数は、ほぼ半減と言えるほどの減りようです。

加盟園に対して毎年実施している園運営実態調査において園児数減少の窮状を訴える園は今年度8割超となり半数の園が在籍数50名以下となっています。調査の自由記述には「休園や廃園、譲渡を視野に入れている。」「少子化が今後も続くことを踏まえた対策を考えたい。」「経営を可能にする戦略的縮小も必要。」「地域における幼児教育の発信拠点として存在意義を示したい。」「良い教育と経営の安定の両立を考えたい。」「朝7時から夕方7時まで園を開ける日本の子育て支援に不安を感じる。」等々、多角的な視点から多くの想いが寄せられています。

子育て支援の基本は安心して子どもを産み育てられる環境があること、産みたくなる環境があることであって、労働政策のみではない子どもの育ちを第一に

考える「子育て支援の充実」が必要なのだと思います。また、子育てにも幼児教育にも経済的支えが不可欠です。国および各自治体に対して、保護者への経済的支援の拡充とともに各幼稚園への経営基盤安定施策を講じるよう訴えていきたいと思っています。そして、これまでのような労働政策を中心とした「子育て支援」だけではなく「ワークライフバランスのとれた生活」、「子どもを産み育てることによる幸せ」、「子どもとともに成長できる喜び」が持てる政策の実現を望むところです。

さて、令和8年9月4日（金）、5日（土）東北地区教員研修大会が八戸市で開催されます。加速する少子化の社会に向けて、「子どもの居る素晴らしさ」を発信したいと思っています。子どもへの思いは未来への思いです。「子どもの力」、「子どもの可能性」、「幼児教育の必要性」への理解を深めていただき、地域全体で「こどもがまんなか社会」の実現を意識していただきたいものです。八戸市内の幼稚園も園児数の減少は目を覆うばかりです。そして、加速する少子化は社会全体に大きな影響を及ぼしています。労働人口の縮小、生産力の低下など、八戸市が、青森県が、日本が、縮んでいくかのような思いに駆られます。そんな時だからこそ、街なかを幼稚園に見立てて、幼児教育の素晴らしさ、大切さを発信し、未来への希望を繋いでいきたいと思っています。

一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構は、令和8・9年度の教育研究課題を「創り出そう！こどもの未来を拓く、良質な乳幼児教育を

届けよう！こどもと共に生きるよろこびを」と掲げました。私たちも、子どもと共に生きる喜びを地域社会に発信して参りましょう。

大会に向けては2年ほど前から計画が進んで参りましたが、いよいよ6ヵ月後です。この大会を節目として、青森県の幼児教育が大きく前進することを切に願います。皆さま方、お一人お一人の大きなお力添えをよろしくお願い申し上げます。

青森地区から

園の紹介



あたご幼稚園

1. 園内のおすすめスポット

【ホール】 異年齢での交流を楽しみながら体を動かして遊ぶホール。季節構わず肌着になって頭にタオルを巻いて走り回っています。体育プロジェクトとして、床運動、マット運動、馬跳び・跳び箱にも挑戦。ホールはたくさん汗をかきながら、できることが増えて、体も元気・心も元気になる場所です！



2. 園のイチオシ行事

【成道会・おゆうぎ会】 12月に成道会・おゆうぎ会があり、各組、おゆうぎ・劇・歌・合奏を発表します。年長組の劇はお釈迦様の劇。心を込めて演じました。会場は大声援大拍手、応援グッズなどで大盛り上がり。まるでライブ会場！最後は年中・年長組の合奏。心が一つになった演奏はとても感動します。



3. 園の「今流行り」

【縄跳び・ドッジボール】 3学期になると朝から縄跳びが始まります。年長にもなると300回以上跳ぶ子、あや跳びや二重跳びにもチャレンジする子が出てきます。年中組も年少組も一度跳べるともうやめられませんが。毎日記録更新です。

ドッジボールも3学期恒例！

先生VS園児でも戦います。年長組は先生チームを倒して卒園です！



4. その他

【かに釣り】 幼稚園の目の前にかわうちまりんビーチがあります。海水浴、サップ、カヌーなどを楽しむことができます。夏になると毎日遊びに行き、かに釣りに挑戦。かに釣りには自立心や協同性、思考力や数量、達成感など様々な学びがあります。みんな楽しみにしていたのに、今年度は熊出没のため海に行けず・・・。来年度、ぜひ川内の海に遊びにきてください！

※釣ったかにはおうちの方に見せてから海に返します。



弘前地区から

園の紹介

認定こども園 木造西幼稚園



1. 園内のおすすめスポット

四季折々の岩木山を臨める、広い園庭が西幼稚園のおすすめスポットです。周囲を田畑に囲まれ遮るものがない西幼稚園の園庭からはキレイに岩木山を臨めます。子ども達は、花摘みや虫取り・遊具あそびを楽しみながら園庭を駆け回っています。



2. 園のイチオシ行事

【夏祭り・合宿会】

提灯を飾り、色々な夜店が並ぶ夏祭りは夏の一大行事。卒園児も来園し、成長した姿を見せてくれます。中でも、やたらと凝った作りのオバケ屋敷は小学生も泣き出す仕上がり…。そして数日後に行われる年長組の合宿会では、夜には肝試し会が待っています。日中は、お買い物や園外活動など楽しいことが盛りだくさんですが、夕暮れ時の薄暗い園舎の中は、普段の楽しい幼稚園とは別な空間のようで、中には泣き出してしまう子も…。色々なオバケとふれあい、課題をクリアし、最後は囚われの担任を助けるため全力で挑む子ども達の姿（後日DVDに編集）は見る者の心を熱くさせます。



3. 園の「今流行り」

最近の流行りはやはり時期的に、お正月遊びや雪遊び！カルタ取りや凧揚げ、園庭の大きな雪山を利用してのソリ滑りなど、寒さに負けず元気に遊び回る子ども達に大人も元気をもらっています。



八戸地区から

園の紹介



まほろば幼稚園

1. 園内のおすすめスポット

【絵本のお部屋】 園舎に入るとすぐに『絵本のお部屋』があります。

大好きな絵本を何度も読める幸せ、登場する人物や動物になりきるワクワク感、新たな発見があった時の驚きと喜び。毎日先生が読んでくれる絵本タイムや、週2回家庭への絵本の貸し出しも行っています。読んでもらった温かい声や物語の世界は、きっと「心の宝物」になっていると思います。

どんな時も、約4,000冊の絵本がすぐ側で寄り添ってしてくれる環境の中で、子どもたちも大人たちも心豊かで安心な「幼稚園時間」を過ごしています。



2. 園のイチオシ行事

【発表会】 日々の園生活の中で育まれた様々な力を一人ひとりが発揮し、保護者の方にもその成長を感じていただく機会になればとの願いを込めて行っています。今年度はステージの子どもたちと教員、そして客席の保護者の皆さんの手拍子や振り付けで、会場全体が「一つになった歌声」が明るく元気に響き渡りました。



3. 園の「今流行り」

【よく見てみよう！ やってみよう！】 野菜や果物の収穫をきっかけに、縦と横に切って、その断面（おなか）を見てみました。自分の目で確かめて、よく観察して、それから自分なりに描いて表現する過程を、全員で楽しみました。

疑問をもったり観察したりの先に、確かめてみる、そして表現してみるという段階的な経験は、新鮮で学びの多い体験活動であることを実感しています。

冬になり、今度は雪の結晶や氷柱に夢中になっている子どもたちです。



4. その他

令和6年4月から児童発達支援事業所を併設し、子どもも大人も互いに認め合い、育ち合える環境づくりに取り組んでいます。

令和7年度青私幼研修会報告

青私幼設置者・園長研修会

第48回

令和7年5月2日（金）
ホテル青森・Zoomによるオンライン

テーマ すべての子どもの幼児教育の充実・発展を考える
～社会状況の変化を乗り越える園を目指して～

講演 私立幼稚園・認定こども園を取り巻く課題私立学校法の改正等について
～こども家庭庁と幼児教育・保育制度等の最新情報～

講師 石田 明義 先生 全日私幼連政策委員長



第49回

令和7年11月11日（火）
ホテル青森

テーマ こどもがまんなかの幼児教育の充実・発展を考え合う
～社会状況の変化を乗り越える園を目指して～

講座 「これからの時代を見据えた幼児教育・保育の在り方とは」
～こども家庭庁の政策などから学ぶ～

講師 坂崎 隆浩 氏 日本保育協会青森県支部 支部長
社会福祉法人清隆厚生会理事長 こども園ひがしどり園長
こども家庭庁こども家庭審議会臨時委員 / 幼児期までのこどもの育ち部会委員・文部科学省今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する有識者検討会委員・その他文部科学省関係の多くの委員を務める

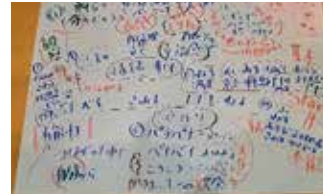
分科会 「2025 園運営実態調査から考える青森県の幼児教育・保育の現状と課題」

- 第1分科会 幼稚園（私学助成・施設型給付）
- 第2分科会 認定こども園
- 第3分科会 次世代
- 第4分科会 特別支援



第9回乳幼児保育研究会

日 時 令和7年5月17日(土)
 会 場 アピオあおもり
 第I講座 『Rights from Start — 誕生から始まる質の高い保育』
 講 師 上垣内 伸子 先生 十文字学園女子大学名誉教授
 第II講座 第I講座を受けてのグループワークと発表
 講 師 上垣内 伸子 先生 十文字学園女子大学名誉教授



第12回新規採用教員研修会

日 時 令和7年7月28日(月)
 会 場 リンクモア平安閣市民ホール
 第I講座 『音からひろがる子どもの世界
 ～「音感受」が豊かな保育を～』
 講 師 泉谷 千晶 先生
 青森明の星短期大学子ども福祉未来学科
 専攻長・教授
 第II講座 『「わたし」ってどんな人間なんだろう？
 今日を造った『昨日』、『明日』を創る今日』
 講 師 櫻本 和也 先生
 青森明の星短期大学子ども福祉未来学科
 准教授



第4回キャリアアップ研修会

日 時 令和7年11月29日(土)
 会 場 八戸商工会議所 (Zoomとのハイブリッド)
 第I講座 「令和時代の子育て支援」～保育者として心得ておきたいこと～
 講 師 島内 智秋 先生 柴田学園大学短期大学部学長
 第II講座 「不適切保育の事例から皆で考え合おう」
 ～保育者の役割と保護者支援の視点から～
 ファシリテーター 島内 智秋 先生 柴田学園大学短期大学部学長

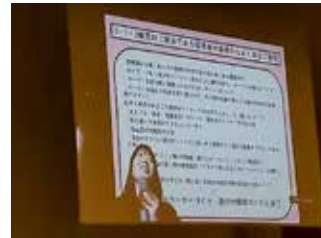




第41回教員研修大会（青森大会）



- 日 時 令和7年8月8日（金）
 会 場 青森会場：ホテル青森
 むつ会場：プラザホテルむつ（会場でのリモート参加）
 各園でのリモート参加
- テ ー マ 一人ひとりの「こどもがまんなか」をまもる質の高い幼児教育を
 ～社会全体でつむぎ未来へつなぐために～
- 第Ⅰ講座 「乳幼児が育つ保育環境とは ― 本・絵本を中心とした子どもの身の回りの環境から考える ―」
 講 師 仲本 美央 先生 白梅学園大学子ども学部教授
 白梅学園大学大学院子ども学研究科教授
- 第Ⅱ講座 「子どもが育つまちをつくる ～園が持つ役割と可能性～」
 講 師 井内 聖 先生 安平町教育委員会教育長・北海道文教大学客員教授



力を合わせて！心を合わせて！ 東北地区教員研修大会（八戸大会）に向けて 教研委員長 岡本 潤子



現在、日本の教育界においては幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針そして学習指導要領の改訂に向かって、文部科学省やこども家庭庁において会議が重ねられています。また同時に、現代の教員・保育者不足の中で、教員養成についても議論されています。保育者をどのように育てるのか、たいへん興味深い内容ではありますが、そう一筋縄ではいかずに課題は山積しているのが現状です。それは双方共に、今後の日本の教育の在り方が大きく問われているからです。しかし、何をにおいても私たちは『学び続ける』ことが必要であることに変わりはありません。

そのような背景の中で迎える次年度東北大会は、これまでの研修とは異なる見せ方に挑戦しています。『マチナカが幼稚園』をコンセプトに、子どもと共に生きる豊かさを園内だけに留めずに、私たちから街中へ出向き、あえて多くの人の中で私たち人間の基礎教育を担う幼児教育の重要性を伝えようというねらいがあります。幼児教育は『教育』であり、地域の中に『教育』が真ん中になれば地域は滅びると言っても過言ではないことを、より多くの方々に向かって示す時にしなければなりません。ですから少々突飛な発想かもしれませんが、全国に先駆けて行うことに意味があると思ひ、皆様の思いと願いを結集して成功させたいと思ひます。

学び続けるその美しい姿を、多くの人に見ていただきたいと思ひます。皆様、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。皆様には研修をぜひ楽しんでいただきたいと思ひます。

